共催：京都大学COC事業（地（知）の拠点整備事業）「COCOLO域」
京都大学大学院教育学研究科　教育実践コラボレーション・センター　E.FORUM

高校生と大学生の探究成果ポスター発表会

グローバル化やICTの革新など変化の激しい現代社会において、新しい価値を創造する探究的な学習が、ますます重要になっています。そこで、この度、京都大学において、高校生と大学生がともに探究の成果を持ち寄って発表するポスター発表会を開催いたします。

自分なりの問いを見つけ、探究に取り組んでいる高校生の皆さん、京都大学で探究の成果を発表してみませんか？　京都大学で探究や研究に取り組んでいる学部生・大学院生の皆さん、全国に自分の探究や研究の成果を発信してみませんか？

どうぞふるってご参加ください。

※このポスター発表会は、同日に開催される京都大学大学院教育学研究科E.FORUM教育研究セミナーの【第1部】としても位置づいています（裏面参照）。

日時　2015 8/1(土)　10:30～12:30（受付10:00～）

場所　京都大学吉田キャンパス　人間・環境学研究科　大講義室（B23）

発表者　高校生
京都大学の学部生・大学院生

参加費　無料
Cf. E.FORUM 教育研究セミナー【第２部】については2000円（学生1000円）
発表者以外の方の参加申し込み方法については、裏面をご確認ください。

発表申込　右記のサイトよりお申し込みください。http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/
受付期間は、2015年6月22日(月)から7月10日(金)です。定員になり次第、締め切ります。

プログラム

- 開会挨拶　高見　茂（京都大学理事補（広報・地域交流担当）、地域連携教育研究推進ユニット長）
- ポスター発表１
- ポスター発表２
- 講評　大杉　住子（文部科学省 初等中等教育局教育課程課　教育課程企画室長）
  塩澤　幸雄（国立研究開発法人科学技術振興機構 理数学習推進部　主任調査員）
  北野　正雄（京都大学理事（教育・情報・評価担当））
- 閉会挨拶　桑原　知子（京都大学大学院教育学研究科　教育実践コラボレーション・センター長）
- 司会　服部　憲児（京都大学大学院教育学研究科　准教授）

発表に関わる準備など

- 当日は発表に用いるポスターを持参し、受付で指定された場所に10:30までに掲示してください。
- ポスターの掲示可能な範囲は横90cm×縦180cmです。（A0サイズを1枚、貼ることができます。）
- 後日、報告書を作成します。報告書用の原稿（A4用紙1～2ページ）を当日、受付で渡してください。発表用ポスターをA4判に印刷したものが望ましいですが、その形での原稿提出が難しい場合は、書式自由です。ただし、必ず「学校名（高校名、あるいは京都大学の所属学部・研究科名）・学年・氏名」を明記してください。

お問い合わせ先
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
京都大学大学院教育学研究科　E.FORUM 事務局
E-mail: e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp　Fax: 075-753-3033

発表一覧（数字のみは高校生の発表、四角囲み数字は大学生/大学院生の発表です）

1	オセロにおける盤面と勝敗の関係性について	徳島県立城南高等学校（SSH）	河野　晴太 井内　啓介
2	ぶぶんぐんゲーム	京都大学大学院理学研究科（ELCAS）	山崎　美幸
3	兄弟素数	金光学園高等学校（SSH）	藤　晃成 黒川　征之
4	カプレカー変換に関する考察	奈良女子大学附属中等教育学校（SSH）	市田　美玲
5	ガウス整数の中の完全数	大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	有本　諒也
6	オガ炭燃料電池の可能性	金光学園高等学校（SSH）	大月　貴弘 猪原　豪 榊原　智之 大久保一真
7	「紛体時計」のメカニズムの追求	兵庫県立加古川東高等学校地学部（SSH）	國澤　昂平 友野　稜太 伊東　陽菜
8	扇風機の羽と音の関係 〜羽の回転数と音の関係〜	徳島県立城南高等学校（SSH）	結城　拓弥
9	理想的なパラシュートを目指して	福井県立若狭高等学校（SSH）	山口穂多瑠
10	レーザー雨量計 Mark Ⅱ について	徳島県立城南高等学校（SSH）	嶋田　大地 府殿　崚冬
11	K イオンによるカエルの体色変化について	徳島県立城南高等学校（SSH）	小川　早輝
12	淡水魚５種の塩分耐性とイオン濃度調節	京都府立嵯峨野高等学校（SSH）	城　千遙 杉本　有紀 高野　翔子 黒川　亮
13	酸性条件下において希少糖がプラナリアの死亡率に及ぼす影響	徳島県立城南高等学校（SSH）	高橋　恵里
14	尼崎運河の水質調査と水質改善の研究	兵庫県立尼崎小田高等学校（SSH）	青野　翔一 青柳　百香 中村　洋介 難波　真也
15	河川水に含まれる重金属がミジンコの産卵数に与える影響について	徳島県立城南高等学校（SSH）	弘田　和 渡邉　佳穂
16	郷土菓子くずまんじゅうにおけるクズデンプンの老化の研究	福井県立若狭高等学校（SSH）	山前　結

17	高等学校における山陰海岸ジオパーク教育旅行モデルのプランニング ～山陰海岸ジオパーク推進協議会との連携を元に～	神戸大学附属中等教育学校 （SGH）	前原　一輝 森田恵美里
18	若狭湾海底湧水～押せば命の泉湧く～	福井県立若狭高等学校（SSH）	松岡　風花 吉岡　大翔
19	京滋の在地に学ぶ実践型地域研究 / Practice-oriented Area Study through learning at ZAICHI or Rural Area in the Kyoto-Shiga Region	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科（COCOLO 域）	Dupertuis Noémi-Tiina
20	漁村田烏の現状と課題について	福井県立若狭高等学校（SSH）	河畑　菫 片岡　浩樹 山口　篤紀 下中友規乃 中村　玲菜
21	姫路セントラルパークについて～東京ディズニーランドと比較して～	神戸大学附属中等教育学校 （SGH）	尾田　美月
22	マチカド sozo 館 これまでとこれから	京都大学教育学部 現代教育基礎学系 （COCOLO 域）	松永　倫子 坂井　晃人 福田　和友 福田　健太
23	ママスプロジェクト～宮古産ママスと若狭へしこで未来を救う～	福井県立若狭高等学校（SSH）	磯野　萌子 仁尾　光佑
24	Depopulation and Abandoning Farming Problem in Bhutan and Japan - Experience through Sasari Village, Miyama, Kyoto	Sherubtse College, Bhutan ECCDI(Ecosystem Conservation and Community Development), Myanmar （COCOLO 域）	Sangay Tshechu Kelzang Namgay Pema Jamtsho Thinley Zangmo May Thet Su Kyaw Tint
25	草の根外交～市民が担う交流で国際的な友好関係を築く～ Grass-roots Diplomacy ~Friendship Built by Citizens~	東京大学教育学部附属中等教育学校	田中茉由子
26	ブータンの農村から見えたもの～京都大学国際交流科目「ブータンの農村に学ぶ発展のあり方」での実践を通じて	京都大学大学院農学研究科 京都大学総合人間学部 （COCOLO 域）	谷　　悠一郎 長澤　勇貴
27	平和構築における国連と日本の役割～PKO のこれからと課題～	兵庫県立尼崎小田高等学校 （SSH）	米尾　祐哉 奥田陽葉梨 鬼頭明日香 山本　学
28	SOCIAL ACTION !で持続可能な開発を担う人材育成プロジェクト	名古屋国際高等学校 （SGH アソシエイト）	岩田　昌也 松木　竜

29	右翼・左翼の語義の変遷と歴史事象との因果関係	京都市立堀川高等学校（SGH）	宮川　哲正
30	1 人暮らしのお年寄りがよりよい生活を送るための支援	神戸大学附属中等教育学校（SGH）	増田こころ
31	東北の高校生の心の復興	東京大学教育学部附属中等教育学校	有田　志帆
32	保健室の利用しづらさの改善	東京大学教育学部附属中等教育学校	高柳のはら
33	LINE 既読無視による人間関係の変化ー京都市立堀川高等学校（共同研究校）へのご提案	京都大学大学院教育学研究科・教育学部（COCOLO 域）	森岡優季子 木村　公美 坂梨　俊 硲　　健太 足立　洸稀 坂下　直子
34	日本人高校生のプレゼンテーション力の批判的考察	東京大学教育学部附属中等教育学校	伊藤　皇
35	大学生による高校生の進路選択支援の試み	京都大学大学院工学研究科 京都大学大学院教育学研究科	大屋　智和 本宮裕示郎
36	堀川高校における探究活動（自主ゼミ）の支援ー評価の在り方に関するリーフレット作成を通してー	京都大学大学院教育学研究科・教育学部（COCOLO 域）	加藤　夕貴 平岡　和樹 森本　和寿 小屋松ちひろ 進藤梨紗子
37	ゆとり教育の真価を問い直す	京都大学教育学部	森本　翔太 鎌田　祥輝
38	堀川高校の授業改善のためのアクティブ・ラーニング導入の提案	京都大学大学院教育学研究科・教育学部（COCOLO 域）	植山　兼次 栗崎慎太郎 佐伯　麻有 射場　康輔 鎌田　祥輝 望月　実
39	大学博物館と学校現場で創る「学び」―京都大学総合博物館「学びの海への船出」展/「京のイルカと学びのドラマ」展を例として	京都大学総合博物館（COCOLO 域）	蒲生　諒太 大野　照文
40	ダンスーその身体表現と教育的可能性	神戸大学附属中等教育学校（SGH）	板倉　モモ
41	幼児画の見方～親子の第三のコミュニケーションツール～	東京大学教育学部附属中等教育学校	富岡はづき
42	新たな観光ソーシャルサービスの開発―Genius Table のこれまでの取組―	京都大学文学部 京都大学法学部 （COCOLO 域）	安達　紗季 瀧川　雄大

発表内容

1　オセロにおける盤面と勝敗の関係性について

徳島県立城南高等学校（SSH）

河野　晴太（3 年）・井内　啓介（3 年）

オセロの様々な盤面で、先手後手どちらが有利かを解明するのが目的である。そのままでは複雑すぎるため、盤面の縦横の列の数を変えるなど、特殊ルールを設定した。結果は、調べた範囲ではほぼ先手必勝となった。

2　ぶぶんぐんゲーム

京都大学大学院理学研究科（ELCAS）

山崎　美幸（修士 1 回生）

「ぶぶんぐんゲーム」の紹介と、できれば体験が出来ればと思っております。
「ぶぶんぐんゲーム」とは、ケイリーグラフの描かれたカードを使って、数字の大小関係の代わりに群の包含関係で大富豪をするものです。

3　兄弟素数

金光学園高等学校（SSH）

藤　　晃成（2 年）・黒川　征之（2 年）

兄弟素数とは素数の差ということを定義した。
範囲を決めその素数の差を調べ、それの個数をグラフ化したものの分布について発表する。新しく発見した規則についても発表します。

4　カプレカー変換に関する考察

奈良女子大学附属中等教育学校（SSH）

市田　美玲（4 年）

カプレカー変換とは自然数において、各桁の数字を並びかえて作ることのできる最大の数から最小の数を引く操作をいう。この変換を続けたときの収束と循環の様子を、6 桁までの変換について整理した。

5　ガウス整数の中の完全数

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

有本　諒也（3 年）

ガウス整数が一意分解整域であることから、ガウス整数においても、整数における完全数のような元が存在するのかどうかについて調べた。素元の累乗と別の素元の積の形をした完全元は、３つしかないことを特定した。

6　オガ炭燃料電池の可能性

金光学園高等学校（SSH）

大月　貴弘（2 年）・猪原　豪（2 年）・榊原　智之（2 年）・
大久保　一真（2 年）

多孔質で安価のオガ炭に注目し燃料電池を作りました。今現在燃料電池にはおもに白金が使用されているのですが高価なため他のさまざまな触媒を試し一番効率のよかったものを使いセルを作りました。

7　「紛体時計」のメカニズムの追求

兵庫県立加古川東高等学校　地学部（SSH）

國澤　昂平（2 年）・友野　稜太（2 年）・伊東　陽菜（2 年）

大きさと重さの異なる二種類の粉粒体が左右の部屋を交互に往復し続ける「粉体時計」という現象のメカニズムを解明するために、まず比較的単純な現象である「粉体のマクスウェルの悪魔」を先に解明する。

8　扇風機の羽と音の関係
～羽の回転数と音の関係～

徳島県立城南高等学校（SSH）

結城　拓弥（3 年）

扇風機の種類が違えば違う音がでることに興味を持ち、音を小さくする方法を考えたことが研究動機で、回転している羽から出ている音を高速フーリエ変換し、回転数と音の間にどのような関係があるかを検証した。

9　理想的なパラシュートを目指して

福井県立若狭高等学校（SSH）

山口　穂多瑠（3 年）

災害時の物資の運搬に利用することを目的とし、理想的なパラシュート（正確な地点に落ちることと緩やかなスピードで着地することが条件となる）の製作のための実験を行った。

10　レーザー雨量計 Mark Ⅱ について

徳島県立城南高等学校（SSH）

嶋田　大地（3 年）・府殿　崚冬（3 年）

先輩の研究を引き継ぎ、高輝度グリーンレーザーの散乱を用いて雨量を測る装置を考案した。新たに、グリーンレーザーだけを透過するバンドパスフィルタや横長ミラーを用いて、より設置が簡単な装置に改良した。

11　Ｋイオンによるカエルの体色変化について

徳島県立城南高等学校（SSH）

小川　早輝（3 年）

メダカのウロコはナトリウムイオンやカリウムイオンを滴下すると、体色変化が起こる。体色変化をするアマガエルで実験しても、同様の現象が起こるのか、特に黒色素胞の変化に注目して調べた。

12　淡水魚５種の塩分耐性とイオン濃度調節

京都府立嵯峨野高等学校（SSH）

城　千遙（１年）・杉本　有紀（１年）・高野　翔子（１年）・黒川　亮（３年）

淡水魚の汽水域に暴露し、体内に流入するイオンに対していかに調節しているかを５種の淡水魚を用いて実験した。いずれの魚も No＋の増加とＫ＋の現象が確認できた。また、魚種によっても増減量に違いが見られた。

13　酸性条件下において希少糖がプラナリアの死亡率に及ぼす影響

徳島県立城南高等学校（SSH）

高橋　恵里（3 年）

酸性条件下で、希少糖がプラナリアの再生に及ぼす影響を調べた。研究の結果、希少糖はプラナリアの再生速度に影響を及ぼさないが、酸性条件下で切断した個体の死亡率を低下させることがわかった。

14　尼崎運河の水質調査と水質改善の研究

兵庫県立尼崎小田高等学校（SSH）

青野　翔一（3 年）・青柳　百香（3 年）・中村　洋介（3 年）・
難波　真也（3 年）

大阪湾の奥にある尼崎運河の貧酸素化の環境問題を改善するため、水質調査による貧酸素の状態確認とその原因を考察した。また、県の水質浄化施設にある人工干潟の改良を工夫し、水質改善の方法を検討した。

15　河川水に含まれる重金属がミジンコの産卵数に与える影響について

徳島県立城南高等学校（SSH）

弘田　和（3 年）・渡邉　佳穂（3 年）

銅山跡から重金属が流入している徳島県神山町の広石谷川の河川水が水生生物に与える影響を調べるため、環境指標生物として水質調査によく利用されるミジンコを用いて、その産卵数の変化を調べた。

16 郷土菓子くずまんじゅうにおけるクズデンプンの老化の研究

福井県立若狭高等学校（SSH）
山前　結（3 年）

小浜の郷土菓子くずまんじゅうは透明感と食感が魅力である。しかし、クズデンプンが老化すると、透明感はなくなり、硬い食感へと変化する。その食感の変化を見た目から判断する方法を探索した。

17 高等学校における山陰海岸ジオパーク教育旅行モデルのプランニング ～山陰海岸ジオパーク推進協議会との連携を元に～

神戸大学附属中等教育学校（SGH）
前原　一輝（5 年）・森田　恵美里（5 年）

学校側と観光団体側が互いにメリットのある汎用性の高い山陰海岸ジオパークの教育旅行モデルを，私の学校での実施を試みつつ推進協議会との連携を元に構築した．実施は出来なかったため，その要因についても考察する.

18 若狭湾海底湧水 ～押せば命の泉湧く～

福井県立若狭高等学校（SSH）
松岡　風花（2 年）・吉岡　大翔（2 年）

小浜湾の豊かな海は、海底湧水と関係があると仮説を立て、海底湧水の分布調査、室内実験を行い、研究した。研究の結果、アマモの生育、一次生産者である珪藻類の生育は、湧水が関係することを明らかにした。

19 京滋の在地に学ぶ実践型地域研究 / Practice-oriented Area Study through learning at ZAICHI or Rural Area in the Kyoto-Shiga Region

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（COCOLO 域）
Dupertuis Noémi-Tiina（修士 1 回生）

PLA on De-population problem in Chii, Miyama-cho, Kyoto Prefecture with view of overseas

20 漁村田烏の現状と課題について

福井県立若狭高等学校（SSH）
河畑　堇（3 年）・片岡　浩樹（3 年）・山口　篤紀（3 年）・
下中　友規乃（3 年）・中村　玲菜（3 年）

過疎化が進行している福井県小浜市の田烏という集落でフィールドワークを実施し、そこから得た情報をもとに、田烏の将来にとって何が必要なのかを高校生の視点から研究した。

21 姫路セントラルパークについて
～東京ディズニーランドと比較して～

神戸大学附属中等教育学校（SGH）

尾田　美月（6 年）

集客力が高い東京ディズニーランドの優れた点を調べ、実際に姫路セントラルパークで行ったアンケート調査の結果と比較して姫路セントラルパークの改善点を提案する。

22 マチカド sozo 館 これまでとこれから

京都大学教育学部現代教育基礎学系（COCOLO 域）

松永　倫子（4 回生）・坂井　晃人（4 回生）・福田　和友 （修士 1 回生）・
福田　健太（3 回生）

昨年度の活動である、ベジフェス、サンタさんへ送る手紙、1 日子ども店長の活動報告と、今年度の活動計画を発表します。

23 ママスプロジェクト
～宮古産ママスと若狭へしこで未来を救う～

福井県立若狭高等学校（SSH）

磯野　萌子（3 年）・仁尾　光佑（3 年）

東日本大震災で被災した岩手県宮古市で、樽一つあれば常温製造、保存可能な若狭の伝統水産発酵食品へしこの技術を用いて、サクラマスへしこを開発した。研究の結果、サクラマスへしこを商品化することができた。

24 Depopulation and Abandoning Farming Problem in Bhutan and Japan - Experience through Sasari Village, Miyama, Kyoto

Sherubtse College, Bhutan*1
ECCDI(Ecosystem Conservation and Community Development), Myanmar*2
（COCOLO 域）
Sangay Tshechu（Lecturer*1）・Kelzang Namgay（Lecturer*1）・
Pema Jamtsho（2nd Year*1）・Thinley Zangmo（2nd Year*1）・
May Thet Su Kyaw Tint（Junior Researcher*2）

過疎化と若者の農業離れは日本ばかりでなくブータンにおいても深刻です。地球 規模の問題といえるでしょう。過疎と離農が進む美山町佐々里集落での滞在経験からの発見を発表します。

25 草の根外交
～市民が担う交流で国際的な友好関係を築く～
Grass-roots Diplomacy ~Friendship Built by Citizens~

東京大学教育学部附属中等教育学校

田中　茉由子（6 年）

米国留学時に学んだジョン・万次郎を通した日米交流、都内の姉妹都市交流、自治体による国際交流、民間団体による国際交流、学校における国際教育等の「草の根外交」の調査とその課題、改善案について発表したい。

I would like to have a presentation about the research of grass-roots diplomacy; such as the activities related to John Manjiro between Japan and America, interchange between sister cities, international exchange done by local governments and private organizations, international education, as well as issues and their countermeasures people have in order to conduct grass-roots diplomacy.

26 ブータンの農村から見えたもの
～京都大学国際交流科目「ブータンの農村に学ぶ発展のあり方」での実践を通じて

京都大学大学院農学研究科*1・京都大学総合人間学部*2（COCOLO 域）

谷　悠一郎（修士 2 回生*1）・長澤　勇貴（3 回生*2）

日本の農村で問題となっている過疎化は現在アジアの小国ブータンでも顕在化しつつある。本発表では、2014 年 9 月に実施した京都大学国際交流科目での実践をもとに、ブータンの農村地域の現状について報告する。

27 平和構築における国連と日本の役割
～PKO のこれからと課題～

兵庫県立尼崎小田高等学校（SSH）

米尾　祐哉（2 年）・奥田　陽葉梨（２年）・鬼頭　明日香（２年）・
山本 学（２年）

日本が国連平和維持活動（PKO）に参加してから２０年が過ぎた。激しく変容する国際情勢の中での国連と日本の PKO を通した平和構築の歩みを振り返ると共に、今後の日本の貢献の在り方と課題について考察する。

28 SOCIAL ACTION !で持続可能な開発を担う人材育成プロジェクト

名古屋国際高等学校（SGH アソシエイト）

岩田　昌也(3 年)・松木　竜(1 年)

児童労働や貧困の課題に対して、昨年度取り組んだフェアトレードを用いた国際貢献活動を発表する。また、この取組を踏まえて、今年度新たに取り組んでいるフェアトレードや社会的活動を普及させる取組を紹介する。

29　右翼・左翼の語義の変遷と歴史事象との因果関係

京都市立堀川高等学校（SGH）

宮川　哲正（２年）

日本において、「右翼・左翼」の語義は時代ごとに変遷を辿ってきた。この変遷を、辞書の記述の変化から明らかにする。また、実際の右翼・左翼団体の設立理念と、語義の変遷との連関を調査する。

30　１人暮らしのお年寄りがよりよい生活を送るための支援

神戸大学附属中等教育学校（SGH）

増田　こころ（6 年）

最近 1 人暮らしの高齢者が増加し、これからも増えると予想されている。そこで私達高校生にできる支援を考えた。実際に高齢者の自宅を訪問し何で不自由しているのかを調査し、私達高校生にできることを考案した。

31　東北の高校生の心の復興

東京大学教育学部附属中等教育学校

有田　志帆（6 年）

東北被災生徒を対象として，「心の復興」に有効な取組について検討するために面接調査を行った。結果をケース研究と kJ 法での分類整理を行った。その結果，寄り添い話すことが必要であることが分かった

32　保健室の利用しづらさの改善

東京大学教育学部附属中等教育学校

高柳　のはら（6 年）

保健室の利用しづらさの改善を研究目的とした。子どもの発達段階・性別によって保健室・養護教諭に求めることが違うと考え，小・中・高生を対象に調査を行った。保健室・養護教諭側で改善できる点を考察した。

33　LINE 既読無視による人間関係の変化 ー京都市立堀川高等学校（共同研究校）へのご提案

京都大学大学院教育学研究科・教育学部（COCOLO 域）

森岡　優季子（教育学研究科修士１回生）・木村　公美（教育学部４回生）・
坂梨　俊（教育学部３回生）・硲　健太（教育学部３回生）・
足立　洸稀（教育学部２回生）・坂下　直子（教育学研究科修士１回生）

ICT 活用と情報モラルについて、特に LINE に焦点を絞って学術文献やフィールドワークで探究し、京都市立堀川高等学校（共同研究校）に対して現役京都大学生がご提案をした過程をご紹介します。

34 日本人高校生のプレゼンテーション力の批判的考察

東京大学教育学部附属中等教育学校

伊藤　皇（6 年）

TED 動画の研究および自身の留学先である米国と日本の高校でのケーススステディを基に、日本人高校生が苦手とするプレゼンテーションの完成度を高く仕上げるためのカギとなる 3 要素の特定と改善策の提案を行う。

35 大学生による高校生の進路選択支援の試み

京都大学大学院工学研究科*1・京都大学大学院教育学研究科*2

大屋　智和（修士 2 回生*1）・本宮　裕示郎（修士 2 回生*2）

愛媛県立今治西高校の学校行事「螢雪大学」は、大学生が主体となって運営する進路行事である。大学生との交流を重視した進路体験型授業により、高校生の大学進路選択に対する関心を高められたことが明らかになった。

36 堀川高校における探究活動（自主ゼミ）の支援 ー評価の在り方に関するリーフレット作成を通してー

京都大学大学院教育学研究科・教育学部（COCOLO 域）

加藤　夕貴（修士 1 回生）・平岡　和樹（修士 1 回生）・森本　和寿（4 回生）・小屋松　ちひろ（3 回生）・進藤　梨紗子（2 回生）

私たちの班は、京都市立堀川高校で行われている、自主ゼミの評価の在り方に関するリーフレットを作成しました。その学習活動の経緯や意義、課題などについて、サポートに当たった大学院生から発表を行います。

37 ゆとり教育の真価を問い直す

京都大学教育学部

森本　翔太（２年）・鎌田　祥輝（２年）

一般的に否定的に語られがちである、ゆとり教育について、あまり語られない意義を問い直す。

38 堀川高校の授業改善のためのアクティブ・ラーニング導入の提案

京都大学大学院教育学研究科・教育学部（COCOLO 域）

植山　兼次（修士 1 回生）・栗崎　慎太郎（3 回生）・佐伯　麻有（3 回生）・射場　康輔（2 回生）・鎌田　祥輝（2 回生）・望月　実（修士 2 回生)

私たちは、京都市立堀川高等学校における探究活動と近年注目されているアクティブ・ラーニングとの関係を調査しましたので、その活動の経緯や結果について発表したいと思います。

39 大学博物館と学校現場で創る「学び」―京都大学総合博物館「学びの海への船出」展/「京のイルカと学びのドラマ」展を例として

京都大学総合博物館（COCOLO 域）

蒲生　諒太・大野　照文（京都大学総合博物館）

京都大学総合博物館では博学連携等を利用して様々な「学び」を提供している。今回は昨年度「学びの海への船出」展、今年度「京のイルカと学びのドラマ」展を例に大学博物館と学校現場が作り出す「学び」を紹介する。

40 ダンスーその身体表現と教育的可能性

神戸大学附属中等教育学校（SGH）

板倉　モモ（6 年）

2011 年 4 月から義務教育の体育授業での必修となったダンス。このダンスと人間の関わりを身体、文化面から探究し、高校生へのアンケート調査を基に教育的可能性と学校におけるダンス授業への提言としてまとめた。

41 幼児画の見方～親子の第三のコミュニケーションツール～

東京大学教育学部附属中等教育学校

富岡　はづき（6 年）

本研究は幼児の描く絵を親子のコミュニケーションツールとして提唱することを目的としている。研究の結果，幼児がを通したコミュニケーションは親子のかけがえのない時間を楽しむ上で重要だと分かった。

42 新たな観光ソーシャルサービスの開発―Genius Table のこれまでの取組―

京都大学文学部*1・京都大学法学部*2（COCOLO 域）

安達　紗季（3 回生*1）・瀧川　雄大（1 回生*2）

学者やデザイナー等の海外から来る多才な旅行者と京都市民とが出会い、知的交流ができるプラットフォームを提供する新たな観光サービス「Genius Table」を開発するための取組について報告を行う。

注意事項

事務局からのお願い

- 企画の記録のため、京都大学オープン・コースウェア（http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja）や事務局がカメラで撮影しています。発表の様子を紹介する写真については、後日、報告書やウェブページに掲載する場合があります。予めご了承ください。
- 参加者個人によるポスター撮影については発表者の許可を得た上でお願いします。
- アンケートにご協力ください。特に4番にご記入いただいた内容については、後日、まとめて報告書に掲載したいと考えています。よろしくお願いします。

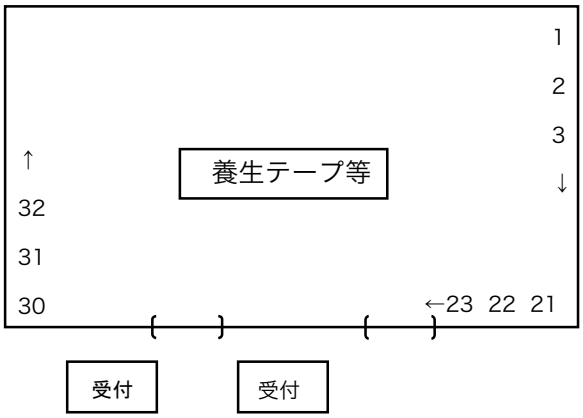
発表の方法

- 発表内容をポスター形式で掲示し，それをもとに発表者と参加者の間で個別に討議していただきます。参加者との積極的な交流をよろしくお願いします。代表者だけではなく連名発表者も参加し、発表に参加することが期待されています。
- 聞き手の方は発表途中でも適宜質問をしていただいて構いません。聞き手の方は発表者との積極的な交流をよろしくお願いします。
- 下記の時間帯（30分），該当する番号のポスター発表者は，ポスター前にて発表・交流をお願いします。

  奇数：10:50-11:20

  偶数：11:30-12:00
- 指定された位置(横 90cm×縦 210cm)にポスターをセッション開始時刻までに発表者自身で掲示してください。ポスターの貼付けには養生テープを用意します。
- 終了後速やかにポスターは外してください。発表終了後30 分を経過しても貼付けてあるポスターは実行委員会で処分します。

会場図（数字は発表番号）



その他連絡事項

- 当日、最寄りの大学食堂は閉店しておりますが、会場付近に食事が出来るところは多くございますのでそちらをご利用ください。弁当の取り扱いはいたしません。
- 会場内でコピーは出来ません。会場近くのコンビニエンス・ストアをご利用ください。
- ポスター会場と同じ建物内に自習室がございます。静かにご利用ください。